

務臺理作 姓 哲學者、文學博士。明治二十二年八月八日長野縣生れ。昭和四十九年七月五日歿（八九〇一七五）。筆名務臺章徳。大正七年京都帝國大學文藝科大學哲學科卒。十五年歐洲留學。昭和二年臺北帝大教授、十年東京文理科大学教授、二十年同學長、二十六年慶應義塾大學教授。日本哲學會委員長。

著書『フイヒテ』（昭和十二年二月、千代田岩波書店）『大教育家文庫』、再刊、二十四年一月、二十五日岩波書店）、『表現と論理』（昭和十五年

年五月十五日弘文堂書房）、野崎廣義著『懺悔とこの哲学』（高坂

正顯共編、昭和十七年九月、千代田弘文堂書房）、『學問論』

山田孝
作田莊
安岡正
一雄 合著、昭和十九年八月五日文部省教育局「教壇叢書」）、『文化と

宗教』（昭和二十二年七月十五日弘文堂書房）、『西田幾多郎（その

人と文學）』（合著、昭和二十三年十月二十五日大東出版社）、『實

存と虚無と頽廢（座談）』（新井哲郎
高坂正顯
西谷啓治合著、昭和二十四年二月十五日

弘文堂「アテネ文庫」）、『第三ニヒウマニズムと平和』（昭和二十六年

年十一月十五日培風館）、『科學・倫理・宗教—人類の幸福のたの

び』（昭和二十年八月十五日培風館「黎明叢書」）、『師・友・讀書』

（合著・渡邊一夫編、昭和二十一年九月、千代田河出書房「河出新書」）、

『セーレン キルケゴール—その人と思想』（編、昭和二十一年十一月

十五日理想社）、『哲学概論』（昭和二十二年九月、二十九日岩波書

店）、『現代のヒューマニズム』（昭和二十六年六月

月、二十四日岩波書店「岩波新書」）、『すがれ—務

臺理作遺稿集』（昭和五十年七月五日務臺清刊）等。

